



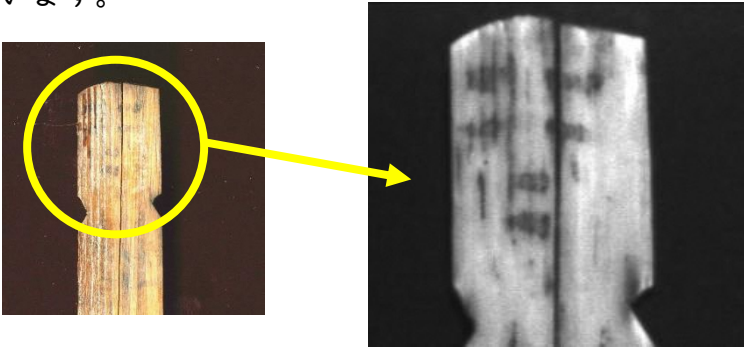
くさつ 草津ものしりクイズ

中級編3 回答解説 (答え合わせ)

読むのがむずかしいときは、おうちの人といっしょに読んでね。

もんだい 1	答えは②の「渋川」です。
こたえ ②	渋川は中山道に沿って大路井と市街地が連続し、当時の国鉄草津駅から徒歩5分～10分程度の地域で、元々草津村と関係が深い地域でしたが、昭和29年(1954)の草津市成立時には草津市に組み込まれず、現在の栗東市の前身にあたる「栗東町」の治田村に組み込まれました。 しかし、生活圏が草津と同一であることや、治田村をはじめとする栗東町の地域とは関係性が薄いことなどを理由に、治田村からの分離と草津市への合併を訴え続け、昭和31年(1956)9月に草津市への合併が実現しました。 もし、このときに渋川地域の住民が草津市への合併を訴え続けなければ、今の草津市はもっと違うまちになっていたかもしれません。

もんだい 2	答えは①の「志津小学校」です。
こたえ ①	志津小学校が位置する青地地域には、かつて「青地城」と呼ばれたお城が築かれていました。 現在の志津小学校から小槻神社まであたりが城跡とされ、小学校南側の高台付近の本丸跡 <small>ほんまる</small> に、「青地城主之碑」「青地城山碑」が建てられています。城跡の規模は200m余四方、本丸など建物跡が建っていたと思われる小高い丘陵があり、周囲には空堀 <small>からぼり</small> と土塁の遺構が残っているため、草津市内で唯一見ることができるといえます。 また、小学校前の「城池」は、かつての城の防衛機能のひとつである堀であったと推測されます。 ※中世城郭は、天守を持たない大規模な屋敷のようなものです。 (天守を持つ城とは、彦根城や姫路城のような城です)

<p>もんだい 3</p>	<p>答えは①の「厄除け」です。</p>
<p>こたえ ①</p>	<p>平安時代の書物『延喜式』によると、当時は人形で自分の体をなでたり息を吹きかけたりした後、自分の身代わりとして川へ流すなどしていたとの記録があり、この人形もそのような「厄除け」に使われていたと考えられます。</p> <p>この人形は、青地町の^{おおじょうぎ}大定木遺跡の平安時代後期の溝の中から出土したものです。</p> <p>色が薄くなっているため少しわかりづらいですが、よく見ると墨で人形の顔が描かれています。</p> <div style="text-align: center;">  </div>

<p>もんだい 4</p>	<p>答えは②の「ピンポン」(卓球)です。</p>
<p>こたえ ②</p>	<p>史跡草津宿本陣の玄関広間(本陣入口すぐ)が遊戯室として使われました。元々敷かれていた畳を取り外し、板間(いわゆるフローリング)にした上に、卓球台が置かれ、遊戯室として使われていたようです。</p> <p>長く玄関広間は板敷きのままでしたが、草津宿本陣の平成の大改修の際に、畳敷きとなり、江戸時代の往時の姿に戻りました。</p>

<p>もんだい 5</p>	<p>答えは③の「14基」です。</p>
<p>こたえ ③</p>	<p>史跡野路小野山製鉄遺跡からは14基もの製鉄炉や、木炭窯、管理棟などの跡が、発掘調査で見つかっています。遺跡の規模が大きいことや、製鉄の原材料に草津では産出しない高純度の鉄鉱石が使われていた点などから、当時大国であった近江国府(大津市)と深く関連する遺跡と考えられ、古代律令国家を支えた製鉄遺跡として貴重なものです。</p>

【問合せ先】

草津市歴史文化財課 〒525-8588 草津市草津三丁目 13-30

TEL : 077-561-2429 FAX : 077-561-2488 E-mail : bunkazai@city.kusatsu.lg.jp